

米沢巡検

濱 真由美

奥羽本線赤湯駅に、家から直行する者、これを機会に東北旅行を巡検前後に計画した者等、2年生の面々がバラバラと集まって来た。夏休み中の久しぶりの再会を喜びつつ、9月9日正午から、内藤先生の御指導のもとに、この2泊3日の米沢巡検は始まった。

1日目はまず、駅まで出迎えに来て下さった南陽市役所の方々と共に、バスで市役所を訪ねた。そこで南陽市の概略、ぶどう栽培の中心地としての、また温泉観光地としての役割、後で見学することになっている白竜湖等について、スライドも交えて説明していただいた。その後、烏帽子山公園・八幡神社に向かった。そこでは、眼下に広がる水田の中にぼつりぼつりと家の点在する散村風景等、盆地の様子が概観でき、盆地を囲む山の斜面には、ぶどう栽培のためのビニールハウスがよく見えた。そして、もともとは沼であったといわれている米沢盆地の名残である、白竜湖に行った。ここでは山形県指定天然記念物になっている、みずばしょう等の植物も含めた自然の保護が行われている。保護の難しさ、排水路を作るまでの白竜湖周辺の様子、排水路の役割、ぶどう栽培について聞き、ここのぶどうの中心である、大粒でおいしいデラウェアをごちそうになった。それから温泉事務所へ行き、今まで地元の人達のためであった温泉から、山形新幹線開通によって、温泉観光地としての条件を整えつつある、新しい温泉事業について色々と聞くことができた。温泉源も見学し、1日目の予定を全てこなし終えた。

2日目は米沢市に移動して、米沢市役所で米沢市の都市計画について伺った。米沢市はもともと城下町であり、基盤目状道路や寺町等、所々にその特徴が表れている。それらを残しつつ、新たな都市計画として用途別地域地区分けをしている。地場産業であり、市内に点在している米沢織物（米織）の工場の他に、まとまった工場地区として企業誘致によって作った八幡原工業団地、商業地域、住宅地区などだ。三方を山に囲まれ、北側

にしか市街地を広げられない、といった現状も聞き、市役所の屋上から米沢市を一望した後、教わった知識をふまえ、実際に市内を歩くことで、城下町の名残を実感した。午後はまず鈴源織物という米織工場を見学し、織り方やできあがった製品を見たりした。その後、明治23年に設立されたという米織会館を訪れ、米織関係の8つの組合、米織の実態、そして買継商という、米織の流通に欠かせない存在の役割など、米織に関する様々なことについてお聞きした。3日目の目的地である川西町に移動して、2日目が終わった。

最終日である3日目には、まず町役場を訪ね、町の概要、及びここの主産業である農業についてお聞きした。伝統的な散村形態をとっており、稲作のさかんなこの町は、米の収量が日本一になったこともあり、反当り全国平均450kgに対し、650kgもとれるそうで驚いた。説明を受けた後、実際に、鬼面川扇状地上に位置する散村の様子や用水堰などを見学した。散村とはいっても個々の家は近代的建築になっていることが多い中で、伝統的館堀に囲まれた家も見ることができた。減反政策によって畑地化された所も見かけた。その他、城下町の名残（小松城の大手門跡）を見学した。午後は、樽平酒造工場を訪ねた。酒造りの季節ではないため、工場の中はがらんとした雰囲気ではあったが、酒造り最中には入れてもらえない所も見学させていただき、酒造りに関することを沢山お話ししていただいた。

この酒造工場見学を最後に、あわただしかった米沢巡検は終わった。もりだくさんな内容を贅沢に取り入れた巡検であったため、この報告では書ききれなかったことが山とある。人数が25人と多かったせいもあるが、聞き取り、メモ取りの難しさを改めて感じさせられた。今回の巡検は、そんな基本的な面での勉強にもなり、大変充実したものであったように思う。

（9月9～11日 内藤教官指導）